

ふるさと探訪



[13]

昔むかし、由良川が現在よりもっと南を流れ、宮代町の府道福知山綾部線一帯が沼地だったころの話。

綾部八幡宮の「聖岩」

農民の祈りかなえた神様

子らの成長、縁結びの願かけも

近くには舟着き場があり、物資や人の往来でにぎわっていた。しかし、村民たちには大きな悩みがあった。この辺りには鳥獣や虫、蛇が多く生息していたため、農作物などへの大きな被害をこうむっていた。「何とかならないものか」と村民たちは

て迎えた満願の日。空は真っ暗となり、四ツ尾山が大きく揺れ、村民たちはおびえた。そして大音響とともに巨岩は二つに割れ、岩に石凝姫命（いしこりひめのみこと）が宿った。その後、害虫やマムシなどに悩まされること

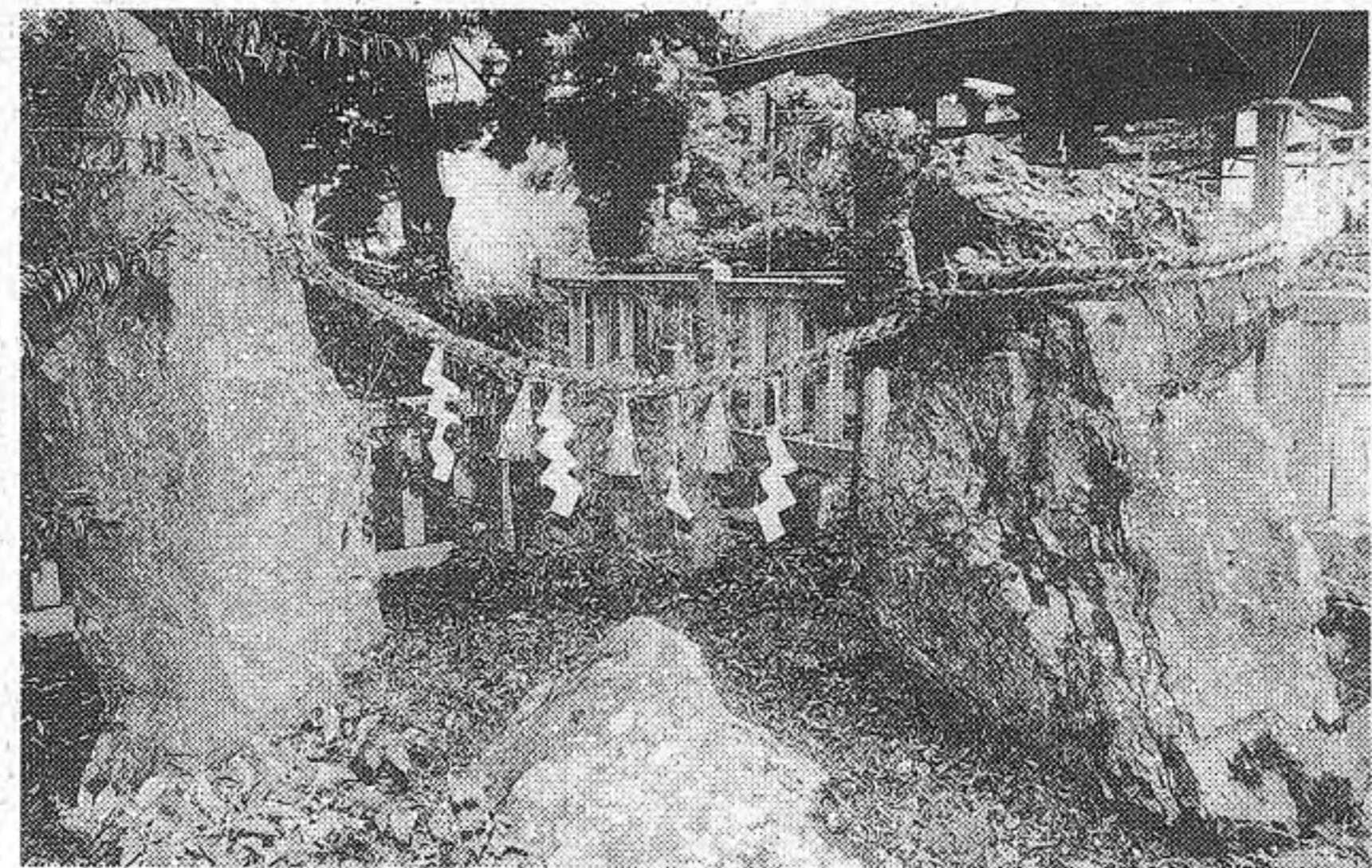
後、害虫やマムシなどに悩まされること

さん」として祭られている巨岩に願をかけることにした。村民たちはこの「岩神さん」を農耕の神様として信仰を更に厚くするとともに、中世のころからは歯痛

村民らの連日連夜の祈とう実る

連日連夜、祈とうを続け

なく、村民たちは安心して農作業に励むことができるようになったという。村民たちはこの「岩神さん」を農耕の神様として信仰を更に厚くするとともに、中世のころからは歯痛



綾部八幡宮境内に祭られている「聖岩」。左が「男岩」、右が「女岩」で、その間に2つの子ども岩が並べられている(宮代町で)

る清水に自分たちの身を映して、恋の成否を占ったとされている。この「聖岩」と呼ばれる岩は、現在の福知山職業安定所綾部出張所の裏手にあった。しかし、この辺りが戦後、開発されるのに伴って岩は移転。綾部八幡宮境内の手洗い所横に並べられた。

その間にはちょっと小さな岩が二つある。手前が男児、奥が女児を表しており、この四つの岩全体で家族を示しているといわれている。

家内円満や安産成就の言い伝え今も

旧暦の六月十五日には「岩神さん」の祭りが盛大に催されたことがあったが、今はない。それでも、夫婦がそろって参拝し、女性が「男岩」、男性が「女岩」に礼拝すると家内円満になるといわれるほか、子どもを早く授かりたいという人は「男岩」、安産を願う人は「女岩」をなでると希望がかなうといった言い伝えは、引き継がれている。(細見)